

# 地域医療連携だより

## 院長挨拶

新型コロナで翻弄された医療界ですが、京都も例外ではありません。重症者の殺到による医療崩壊は何とか避けられましたが、一方で、感染以外の通常診療への影響は甚大でした。患者の受診控えに加えて、不要不急とされる検査や手術の制限により、大半の医療機関で患者数は激減です。当院も例外ではなく、救急車による搬入も半減しました。逆に、35-40%であった救急入院率は50%に上昇し、単なる件数の濃縮以上に、受診控えによる重症化が懸念されます。安心のある医療環境の整備が喫緊の課題です。

現時点では、目指す「終息」には程遠いかもしれませんが、落ち着きつつある「収束」のレベルでしょうか。当面、不安の完全払拭は困難であり、V字回復は望めそうもなく、少し上向きのL字状態が続くと見込んでいます。

政府は「新しい日常」を提言しましたが、今回、私たちも「新しい医療」を考える契機となりました。マスク着用、検温、手洗い、手指消毒は「新しい日常」として定着しました。PCR検査に加えて、抗原と抗体検査も導入できました。地域とのオンライン連携も接続されました。今回の危機を前向きに捉え、「安心と安全」の地域医療は新しく整備されつつあります。



院長 武田 純

### 理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

### 基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

### 環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R  
(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

# 「抗体検査・PCR検査・抗原検査を始めました」

当院の「トラベルクリニック外来」では昨年度の開業以来、海外赴任や出張、留学、観光などの目的で海外に出かける方を対象に、渡航先や個人それぞれの状態に合わせた健康相談やワクチン接種などオーダーメイドでのサポートを行ってきました。

COVID-19 の影響で国内外の移動が制限された状態が続いておりましたが、徐々に国際交流が再開する動きも見え始めています。渡航や国内での出張に際しては COVID-19 に関する証明書を求められるケースも増えてきているようです。当外来では COVID-19 に関する抗体検査、PCR 検査、抗原検査を行い、これらの検査結果に関する証明書を発行しております。ぜひ必要とされる患者様にご案内ください。

検査法	検体	結果判定に要する時間	費用（税込）
抗体検査	少量の血液	約 20 分	22,000 円
PCR 検査	鼻腔ぬぐい液	約 1 営業日（※1）	44,000 円
抗原検査	鼻腔ぬぐい液	約 30 分	33,000 円

（※1）PCR 検査の判定結果：平日の 15:30 までの実施分は翌日の 13:00 頃、土曜日実施分は翌火曜日になります。

トラベルクリニック外来	月	火	水	木	金	土
午前（9 時～ 11 時 30 分）	-	-	-	-	-	○

※平日（月～金）の検査に関しては、075-361-1351（医事部）までご相談ください。



◀ PCR 検査の様子



▲ 抗原体検査キット



▼ PCR 検査キット

カンファ  
レンスに

**オンライン** で参加できます！

令和 2 年度診療報酬改定にて「退院時共同指導料 1 及び 2」の算定要件に、ビデオ通話を用いて共同指導した場合も算定できるようになりました。それに伴い当院では、「V-CUBE」というミーティングアプリを主に使用したオンライン会議の環境を整備しました。カメラ・マイク付きのノートパソコンやスマートフォンからでも簡単に参加することが可能です。操作の説明などは患者サポートセンタースタッフが直接お伺い致しますので、お気軽にお声がけください。

# 患者サポートセンターに薬剤師が勤務しています

主にお薬手帳や問診票を用いて下記のようなお薬に関するお話を患者さんやご家族からお伺いし確認をしています。

後発医薬品や新薬、様々な配合剤などが増えていく中で、薬のスペシャリストとして安心・安全の医療を提供できるよう努めています。

## ① 現在内服している薬剤やサプリメントとその服薬状況

## ② アレルギー歴・副作用歴

## ③ 休薬が必要な薬剤と期間

入院中に予定されている検査、手術や治療を確認し、出血リスクを高める抗血小板薬や抗凝固薬の有無をチェックします。休薬が必要な薬剤については医師の指示を確認し、休薬する薬剤と期間の説明を行っています。

## ④ 毎日、内服するうえでのお困り事の有無

内服の種類や数が多い、服用回数が多いなど入院前にポリファーマシーのアセスメントを行い、入院後の早期にポリファーマシー対策チームと連携して対策を行っています。

## ★ 入院前に薬剤師が患者さんと面談するメリット ★

- ★ 休薬が必要な薬剤（出血傾向のある薬剤など）をチェックすることで、入院中の手術や検査の延期を回避し安全に治療が行える
- ★ 薬剤師が常用薬や過去の副作用歴を確認することで、医師にハイリスク薬についての情報提供を行える
- ★ 入院早期からポリファーマシー対策に取り組める

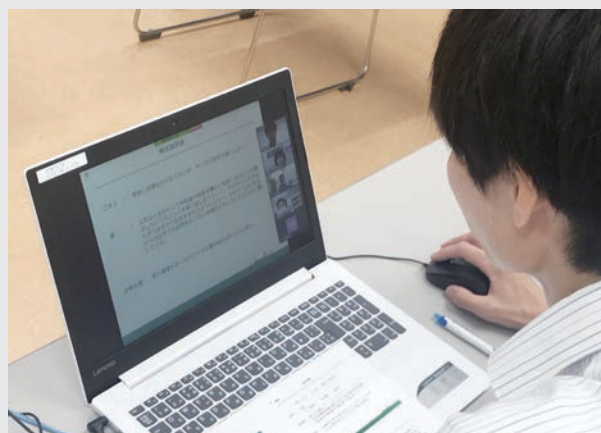


お薬手帳をご持参いただければ、  
ご指導をお願いします。

## 下西医療福祉交流ネットワーク委員会・交流会に **web** で参加しました。

令和2年6月26日、web(zoom)で下西医師会地域の医師・歯科医師・訪問看護・ケアマネジャー・病院相談員の交流会がありました。今回は当院の相談員が退院支援についてお話しし、参加者の皆さまから自宅へ退院するための支援についてご意見・ご質問をいただきました。

これからも、地域の先生方や在宅支援関係者の方々と意見交換しながら、住み慣れた場所で生活が長くできるような支援ができるように頑張っていきたいと思います。



## ストーマ外来を開設致します

皮膚・排泄ケア教育課程修了者 永井さやか

ストーマとは自身の腸や尿路の一部を体外に出し、新しくできた便や尿の出口（排泄口）です。ストーマ外来では、何らかの理由で造設予定となった方、またストーマを保有する方（オストメイト）・その家族に対し、長期的サポートをするのが目的です。ストーマを保有する皆さまが、日常生活をより快適に過ごせるようにお手伝い致します。

患者さんが、「暮らし慣れた場所で安心して生活できる」よう患者サポートセンターと連携し、より良い方法を話し合い、地域の施設や訪問看護ステーションなどの方々とも情報交換を行っています。

外来診察日は、第1・3月曜日 14時～16時です。



## 認知症ラウンドを開始しました

認知症看護認定看護師 西塚 秀明



現在、日本は世界最高の高齢化率を誇り、今後さらに高齢化は進むことが予想されています。高齢化に伴い、認知症を有する高齢者数も増加を来し、今日では約600万人、高齢者のおよそ6人に1人が何らかの認知症を有すると推測されています。病院に入院される患者さんも同様に、認知症高齢者は増加しています。入院によって急激に認知症状が進行してしまう事や、不眠や不穏、興奮を引き起こし、必要な治療が適切に受けられないケースなど、認知症を原因とした入院の長期化は非常に多くなっています。また、入院の長期化が認知症を進行させる悪循環に繋がることも多々あります。

当院では4月から認知症・せん妄チームが、入院中の認知症高齢者が安全に医療を受ける事ができ、住み慣れた地域の住み慣れた環境に早期に退院できるよう、回診・カンファレンスを行っています。専門医のほか看護師、薬剤師、言語聴覚士、社会福祉士、管理栄養士などの多職種が参加し、認知症高齢者の早期退院をサポートしています。

### 受付時間

月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただきます。

患者  
サポート  
センター

医療機関専用

TEL(075)361-1352 (直通)

FAX(075)361-1337 (専用)

※患者サポートセンター受付時間外につきましては医事部（医療事務）にて対応させていただきます。

TEL (075)361-1351 (代表) FAX (075) 361-1268 (医事部専用)